

Generalistを志す上での 若手医師の悩み

炎の1グループ

発表者: 小林 智子 (佐久総合病院)

司会: 大矢 亮 (耳原総合病院)

書記: 齊藤 裕之 (東京医科大学)

みんなの悩み

- ・全人的医療をしたいという漠然とした想いがあるが、どのような道に進めばいいのか？
- ・近くにロールモデルや仲間がいない。
(身近な症例の相談など、専門医の先生に)
- ・ロールモデルが比較的若い！
- ・留学しないとgeneralistになれないの??
- ・他流試合(病院同志の交流)が欲しい！！

みんなの悩み

- ・後期研修後の受け皿がない・・・
- ・自分の将来、帰ろうと思っているがその地域に総合診療科がない。だから、思い切って踏み込めない。
- ・どこまで達成できればgeneralistのGoalなのか？
- ・認定医、専門医も一つの指標だろう。

こんな、専門医の言葉もそれなりに
納得できちゃう・・・

専門医からの発言

「俺は循環器の専門だけど、
generalに診療できるよ！
どうして今更generalistの部門が必要なの？」

実際、専門医の先生方も当直などで専門外への
アプローチもする！！

→generalistのアイデンティティが確立できない！？

専門家の言うことも分かるけど、何となく
そういう専門家とgeneralistは違う気がする

多分、

断らない精神！！

そこに喜びを見い出せるかどうか！



研修をしながらの気づき

- ・やっぱりgeneralistの先生の下で学ぶ、カンファレンスに参加すると違いが分かる！！
- ・専門医とのカンファレンスは自分の専門分野ときだけ声が大きくなる。
- ・内科の専門医が集まったカンファレンスでも、横の繋がりがないと「患者さんのために」という結論に至らない。
- ・優先順位の付け方が違う！！
- ・患者さんがどうしたらhappyに退院できるか？を優先して考えている。カンファレンスでも感じる。

御静聴、ありがとうございました